

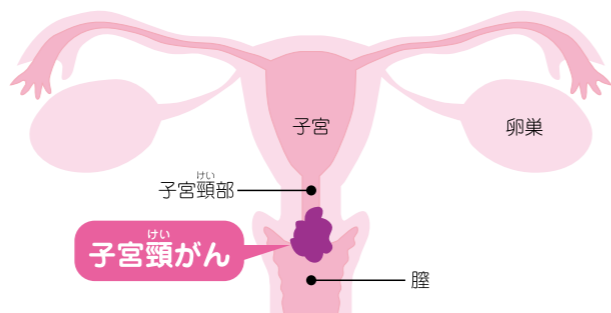
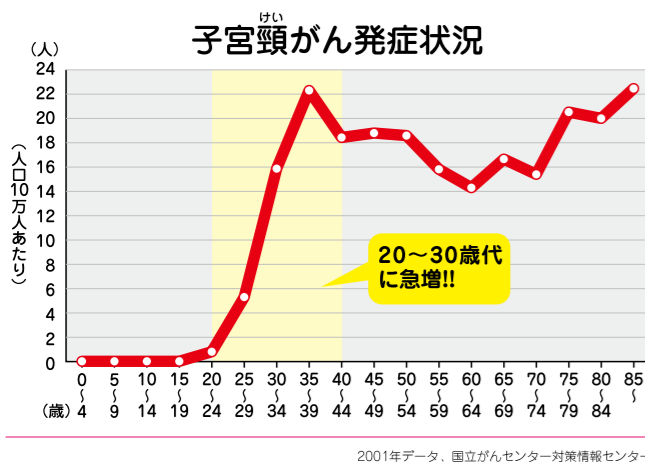


けい 子宮頸がん ワクチンで予防、検診で安心

予防接種が**無料**で
受けられるように
なりました！

20代から増えている子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口付近にできるがんです。日本では毎年約8,500人が発症し、約2,500人がこの病気で亡くなっています。また、近年、20～30歳代の若い女性の子宮頸がんが増えています。



原因はHPVというウイルス

子宮頸がんの原因は、HPV（ヒト・パピローマウイルス）というウイルスの感染です。HPVは、一生の間で多くの女性が感染する、ありふれたウイルスです。HPVに感染すると、1,000人に1.5人が子宮頸がんになります。

子宮頸がんは、唯一ワクチン接種により予防が可能ながんです。

予防接種の費用

一般に、ワクチン接種を受けるには、5万円程度の費用がかかります。しかし、平成23年2月から平成24年3月末日まで、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業により、中学1年生から高校1年生に相当する年齢の女子は、**無料**で接種を受けることができます。

詳しい内容については、お住まいの市町の予防接種担当にお問い合わせください。

子宮頸がん予防ワクチン接種方法

■接種回数は、合計3回です。ワクチン0.5mlを、肩（上腕三角筋部）に筋肉注射します。

■接種時期は、1回目の1ヵ月後に2回目、6ヵ月後に3回目を接種します。



■予防効果は接種後20年と推定されていますが、効果期間については調査継続中です。

香川県

けい 子宮頸がん予防ワクチンに関する Q&A

Q 子宮頸がんは、どうすれば予防できるの？

A 子宮頸がんの主な原因は、HPV（ヒト・パピローマウイルス）というウイルス感染です。自然感染では、十分な免疫が得られず、繰り返し感染してしまいます。感染しないために、予防ワクチンの接種が有効です。

Q ワクチンを接種すれば検診は受けなくてもいいの？

A HPVは、100種類以上あり、そのうち10数種類が子宮頸がんと関係があります。ワクチンで子宮頸がんの原因の多くを占めるHPV16型とHPV18型の感染を防ぐことができます。ただ、このワクチンは全ての発がん性HPVの感染を防ぐことができません。

子宮頸がんを完全に防ぐためには、ワクチンの接種だけでなく、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。ワクチン接種後も、20歳になれば、1～2年に1度はがん検診を受けるようにしましょう。

Q このワクチンで子宮頸がんやその前の段階（前がん病変）を治すことはできないの？

A このワクチンは、すでに感染しているHPVを排除したり、すでに起こっている子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。

Q 子宮頸がん予防ワクチンの副反応は？

A 他の一般的なワクチン同様、接種した後には、注射した部分が痛んだり、赤く腫れたり、かゆみを感じる場合があります。全身的な副反応としては、疲労感や頭痛、吐き気、下痢、腹痛、痛みに対する反射と考えられる失神などが見られることがあります。

なお、重い副反応としては、まれにショック等が認められることがありますが、これは他のワクチンでも同様で、子宮頸がん予防ワクチンが特別に副反応の頻度が高いということはありません。

子宮頸がんは、ワクチンの接種と定期的な検診で予防することができるがんです。

